



【にじゅうまるCOP3発表資料】

電機・電子業界における生物多様性への取組み
～生物多様性保全活動事例データベースと
にじゅうまるプロジェクトの連携について～

2018年2月17日

電機・電子4団体 生物多様性WG
(株式会社明電舎 阿部達也)

2018.02.17-18 にじゅうまるCOP3 無断転用禁止



- 電機・電子4団体※では、多岐にわたる分野での環境活動を、業界の取組みとして連携し推進しています。
- 「生物多様性WG」は、生物多様性条約COP10を契機に2011年5月に発足し、さまざまな活動を続けてきました。
- WGメンバー企業（2017年度 12社、4団体）：
明電舎（主査）、エスペック（副主査）、カシオ計算機、ソニー、東芝、ニコン、NEC、パナソニック、日立製作所、富士ゼロックス、三菱電機、安川電機（オブザーバ）

※電機・電子4団体は下記4つの団体を指します。会員企業数は計600社程度(一部重複あり)。

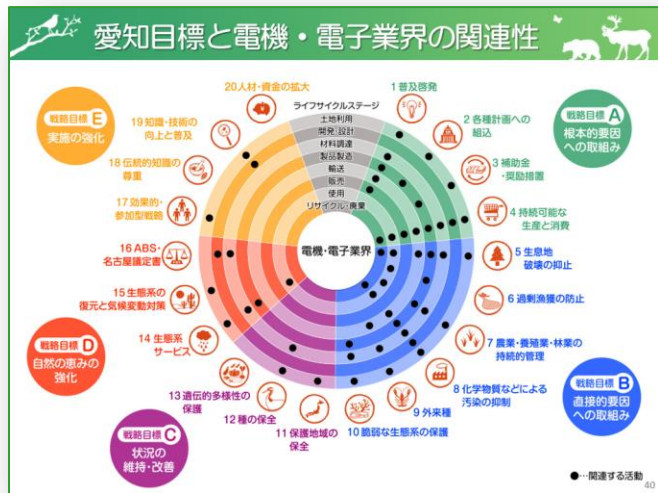
- 一般社団法人 日本電機工業会 (JEMA)
- 一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA)
- 一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)
- 一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会 (CIAJ)



これまでの活動・取組みについて（一部抜粋）

【事業活動と生物多様性の関係性整理】

愛知目標／生物多様性が事業活動と関連していることを提示



【電機・電子 業界行動指針】

8つの愛知目標に対して具体的な活動指針を提示



【Let's Study Biodiversity (LSB)】

パワーポイント形式の生物多様性教育ツール



【生物多様性保全活動事例データベース(DB)】

会員企業の活動事例を登録／参考事例として横展開を図る



にじゅうまるプロジェクトとの連携について

・活動事例データベースの掲載事例をにじゅうまるプロジェクトに提供※

※提供の承諾が得られた事例のみ

生物多様性活動データベース

検索結果

検索方法: 活動地域別検索

検索条件: 北海道 or 青森県 or 岩手県 or 宮城県 or 秋田県 or 山形県 or 福島県 or 茨城県 or 栃木県 or 群馬県 or 埼玉県 or 千葉県 or 東京都 or 神奈川県 or 新潟県 or 富山県 or 石川県 or 福井県 or 山梨県 or 長野県 or 岐阜県 or 静岡県 or 愛知県 or 三重県 or 滋賀県 or 京都府 or 大阪府 or 兵庫県 or 奈良県 or 和歌山県 or 徳島県 or 香川県 or 愛媛県 or 高知県 or 鳥取県 or 島根県 or 岡山県 or 広島県 or 山口県 or 福岡県 or 佐賀県 or 長崎県 or 熊本県 or 大分県 or 宮崎県 or 鹿児島県 or 沖縄県 or 日本全国 or 海外

262 件の活動が検索されました。

NO	画像	会社名 活動/プロジェクト名/ 詳細URL	概要	活動範囲	愛知 目標	LCS (R)
1		パナソニック環境エンジニアリング株式会社 (パナソニック) プラスチック処理システム (BWMS) ATPS-BLUEsysの開発	船舶移動による周辺海域の海洋生態系破壊を抑制するプラスチック処理システム (BWMS) ATPS-BLUEsysを開発した。 船舶の(プラスチック)に含まれる外来性有害水生生物 (プランクトン、バクテリア等) による生態系、環境への影響の抑制のため、インラ	日本全国 海外	09 19	E,G

にじゅうまる宣言をする

にじゅうまる活動を調べる

検索結果 - 696 件の宣言

多摩川流域におけるツバメ集団ねぐらの現状調査
多摩川流域ツバメ集団ねぐら調査連絡会 / 非営利団体
多摩川流域におけるツバメ集団ねぐらの現状調査を行い、保全のための基礎情報及び生態の解明を目指す。また調査結果の広報・普及活動も行う。以上により生物多様性の主流化に貢献する。

ツバメ集団ねぐらとなっているヨシ原の保全・外来種除去活動
多摩川流域ツバメ集団ねぐら調査連絡会 / 非営利団体
多摩川流域のねぐらとなっているヨシ原について、外来種アレチウリの除去を行うとともに、ヨシ刈り等により良好な状態に保全することで、生物多様性への直接的な圧力を減少させる。

わお！わお！生物多様性プロジェクト
ソーニー株式会社、公益財団法人日本自然保護協会 / その他
生物多様性を守るには、多くの人が自然を好きになることが大切。その思いから、ソーニーと日本自然保護協会

182件の事例を提供
うち、174件が宣言※

※2/5時点

【連携による効果】

- ・会員企業各社の活動PR、業界団体の活動PR
- ・愛知目標や生物多様性保全への貢献の見える化
- ・UNDB-J認定連携事業への推薦の可能性

【会員企業へのアンケートにより見えてきたこと】

- 業界の愛知目標達成への貢献度は増してきている

→ただし愛知目標達成・生物多様性主流化に向けてはさらなる活動推進が必要

- 先進的な取り組みと平易な取り組みの両面の支援に関する要望がある

→フロントランナーとボトムアップの両方の側面から、今後も活動を支援していく

→特にボトムアップ支援については、取り組みやすい平易な活動事例と具体的なアクションをまとめたツールを制作中。次年度以降これを活用した活動を推進する

